

大和工業株式会社**2021年3月期期末 決算説明会****主な質疑応答（要旨）**

Q01. 2022年3月期の予想について、営業損益では上期に比べ下期が伸び、経常損益については上期に比べ下期は下がるとの見通しが示されているが、この予想の建付けについて各拠点の前提も含めお聞きしたい。

A01. 先ず営業損益につきましては、日本・タイの両国では、スクラップ高が暫く先行する事が予想される事から、営業損益に関しましては上期よりも下期が強い予想となっております。経常利益につきましては、米国/NYSでは足元の受注状況が堅調であり、鋼材価格の値上げも浸透してきている事から上期については現在の好調が続くと予想をしております。下期につきましては、上期と比べ悪化するというよりも、上期が強い事から需要も調整局面を迎える可能性がある事、また年末にかけて顧客の在庫調整が例年ある事や、クリスマス・サンクスギビング等のホリデーシーズンが含まれる事等加味しております。また、韓国につきましては、日本・タイと同じくスクラップ高が暫く先行するものと見ております。中東に関しましては、足元は製品・ビレット共にスクラップ高を受けて販売価格が改善している一方、鉄鉱石価格も高騰しており、この影響が下期に掛けどの程度出てくるかという点を懸念点としております。ベトナムにつきましては、足元の需要は堅調ではあるものの、スクラップ高の影響が一定程度見込まれる事を想定しております。

Q02. 決算説明資料 P21/キャッシュの配分について、外部調達という項目があるがグループ会社・持分法の関連会社に関して Debt Financing を含めた資金調達を行うという認識で良いか。

A02. ご認識のとおり、“外部調達”につきましては、銀行調達を中心とした外部金融機関からの調達を想定しております。また現在も、あまり利用はしておりませんがコミットメントラインの契約も行っております。

Q03. 決算説明資料 P24/環境への取組みについて、国内事業における CO2 削減目標が“2025 年度 38% (2013 年度比)”としてあるが、実現に向けての具体的な施策についてお聞きしたい。

A03. 38%の目標につきましては、当社がかねてより電力使用量削減に向け行っておりました操業上の施策の効果を積み上げていった数値となります。努力要素も含まれてはおりますが、この数値であれば急激な経済状況の変化などが無ければ達成可能であろうという水準のものです。

Q04. 決算説明資料 P21 キャッシュの配分について、既存設備の能力増強とあるが具体的にどのような物が含まれるか、実施時期も含めお聞きしたい。

A04. 国内の能力増強については、ヤマトスチールの既存設備更新を想定しており、具体的には圧延機と矯正機の更新を検討しております。更新により生産効率は向上しますが生産能力については飛躍的な向上がはかれるものではなく、ほぼ現状維持若しくは若干の増量に留まる見込みです。更新の狙いは、生産効率の向上、ロールの交換に伴うプロセスの単純化・短時間化及び安全性の向上といった点です。

Q05. 米国の形鋼マーケットの状況、また NYS の増産余地について解説頂きたい。

A05. 米国マーケットにつきましては、Amazon 等の配送倉庫やデータセンター、工場等の建設需要が非常に高く“実需が強い”状況にあり、付随して価格も上がっている状況にあります。また増産余地という点につきましては、製造品目により変わってくる部分ではありますが、パートナーの Nucor 社も今後はハイテン材(高張力鋼)の販売に注力していきたいと方針を示しており、数量を上げるよりも“質を上げ、高く売れるものを売る”方向にシフトしていきたいと考えております。

Q06. 米国事業について、リーマンショック前など鋼材価格が非常に高かった時期があったが、当時と比較して現在の状況が違う点があればお聞きしたい。

A06. リーマンショック前などと違う点と致しましては“実需が非常に強い”という点が挙げられます。足元のマーケットでは需要がきちんとあり、スクラップ価格上昇を鋼材価格に転嫁する以上の価格がマーケットに受け入れられる状況であり、実需が強いと感じております。

Q07. 決算説明資料 P21 キャッシュの配分方針について、期間を5年と区切った理由をお聞きしたい。

A07. 投資計画等を含め手元キャッシュの用途についての全体像をお示しするにあたり、対象期間が3年では短く、5年の方が皆様にご理解を頂き易いと考え、5年という期間を想定し作成致しました。尚、投資につきましては5年間ですべてやりきるのではなく、足元から順次行っていく計画である事をご認識頂ければと存じます。

Q08. 決算説明資料 P21 キャッシュの配分/株主還元に使われるキャッシュの範囲について、“毎年の営業CF未使用分を適切に配分”とあるが、FCFを使うのではなく営業CFから設備投資を引いた物を充てるお考えか。

A08. “営業CFの未使用分=FCFから既存設備の能力増強等の支出を除いたもの”とお考えいただく事が出来るかと存じます。設備投資に該当する既存設備の維持更新・能力増強の項目については詳細の検討がこれからである事、また営業CFが每期この水準で発生するかという点がまだ見えない部分となります為、やや曖昧な表現となってしまいますが、“営業CFの未使用分”を出るだけ株主還元に戻らせて頂こうと、当社としましては今までより一歩踏み込んだ説明をさせて頂いております。また、手元キャッシュにつきましては既存設備の能力増強以下の項目(M&A/新規事業投資、環境対策・DX投資等)に充てる事を優先させて頂きたいと考えております。キャッシュの配分につきましては不確定な要素もあり、用途についても明確な線引きが出来ないため、今回は大まかな方針としてお示ししております。

Q09. 決算説明資料 P21 キャッシュの配分について、既存設備の能力増強の国内/300億円はほぼ確定した物と考えて良いか。また海外/300億円はキャッシュフロー上、貸付けになると認識して良いか。

A09. 先ず国内につきましては、ヤマトスチールでの既存設備の能力増強に関して、現在設備の組み合わせ等詳細の検討を実施している最中ではありますが、少なくとも200億を超えている一方、300億円まではいかないと見ております。その他、小規模の戦略的投資を検討する可能性もあり、国内については300億円としております。また、海外分の取扱いにつきましては、案件毎にJVパートナーと協議の上検討していくものであり、株主貸付けのケース、増資、現地金融機関からの借り入れが想定される方法となりますが、現時点では確定した事は申し上げられない状況です。

Q10. 韓国/YKS の移転について、財務面での影響、移転のスケジュールについてお聞きしたい。

A10. 現在パートナーの大韓製鋼社と、釜山から移設する設備や新しく調達すべき設備についての選別を行い、移転についての金額的な規模感や必要資金の調達方法の検討を行っている状況です。移転の時期につきましては、2023 年春先には唐津市への移転を完了し、生産を開始したいと考えております。

Q11. 決算説明資料 P21 キャッシュの配分について、5 年後の状況は手元キャッシュが減り、負債比率が増えているイメージで認識しておいて良いか。

A11. 手元保有キャッシュを優先して使用するように考えてはおりますが、例えば、資金の大部分は米国で保有しており、それを動かす場合はコストが発生致します。そのコスト計算も含め調達方法については検討を行い、状況によっては外部からの調達も組み合わせ資金調達を実施するように考えております。

以上

【注意事項】

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている業績見通しや将来の予測などに関する記述は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、その達成を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。
